

エルサレムよ、
悲しみと不幸の衣を脱ぎ

バルク書 5 : 1 - 9



司祭 ヨハネ 井田 泉

2021 年 12 月 5 日
降臨節第 2 主日

上野聖ヨハネ教会にて

今日は先ほど読まれた旧約聖書続編のバルク書の世界に、少しでも入ってみたいと願います。

バルクとは、紀元前 600 年頃の預言者エレミヤの書記をしていた人で、エレミヤと共にユダ王国の滅亡の悲劇を経験し、やがてエレミヤと共にエジプトに強制的に連れて行かれたと言われます。バルク書は、そのバルクが記したものとされているのですが、実際は後の時代の人がバルクの名を借りて書き記したもののようです。けれどもバルクを伝える貴重な書です。

今日の 5 章の冒頭はこうでした。

「エルサレムよ、悲しみと不幸の衣を脱ぎ、神から与えられる栄光で永遠に飾れ。」バルク 5:1

「エルサレムよ」とだれかが呼びかけています。遠い昔のエルサレムです。耐えがたい悲しみと不幸を経験したエルサレムです。ただ町の名前、というのではなく、人格的存在として、「神の民の母」として、エルサレムは呼びかけられています。何があったのでしょうか。

母なるエルサレムは、国が滅び神殿が焼かれて、自分の子どもたち（エルサレムの住民）が捕らえられて外国に引っぱられて行くのを見ました。エルサレムは、自分の子らが神に背いて、そのゆえに裁きを受けたことを痛切に知りました。

4 章 19～20 節でエルサレム自身がこう言います。

「行きなさい。子らよ、さあ行きなさい。わたしはただ一人
とどまり、平和の衣を脱ぎ、祈願のための粗布あらぬのをまといまし
た。命のある限り、わたしは、永遠の神に向かって叫びます。」
母なるエルサレムは子らのゆえに苦しんで、平和の衣を脱ぎ
ました。そして粗布をまとって、「子どもたちを救ってください」
と、神に向かって叫びました。

しかしエルサレムは信じています。

「わたしは悲嘆のうちに、あなたたちを送り出しましたが、
神はあなたたちを歓喜のうちに、永久に返してくださるで
しょう。」 4:23

そしてエルサレムは、神に背いた子らに呼びかけます。

「子らよ、勇気を出し、神に向かって叫びなさい。あなたた
ちを連れ去った方は、あなたたちを覚えておられます。
あなたたちはかつて神からの離反をたくらみました。回心し
て、今度は十倍の熱心さで神を求めなさい。」 4:27-28

今バルク書の中から、エルサレムの嘆きと呼びかけのいくつ
かをご紹介したのですが、実はこのバルク書はわたし個人にと
って大切な記憶のある書物です。

今からもう 30 年近くも前、わたしは聖公会神学院の教師をし
ていて、あることに継続的に取り組んでいました。それは日本
聖公会の戦争責任を具体的に明らかにしてそれを懺悔・謝罪し、

平和を実現する教会として新しく出発をしたいと、ということでした。それはやがて、日本聖公会の総会決議で実現することになるのですが、それに至る長い年月は厳しいものでありました。

あるときこの課題をめぐって協議会が開かれることになり、わたしは冒頭で発題講演をすることになりました。その前の晩、すでに話す原稿はできていたものの気持ちが落ち着かず、ベッドには入ったのですが、とても眠れるような状態ではありませんでした。教会の過ちに向き合うことはつらいことであり、反発も受けます。

心が苦しくて起き出して、神さまに救いを求めて、夜中聖書を開いて読みました。その時に読んだのがこのバルク書だったのです。

「子らよ、勇気を出し、神に向かって叫びなさい。あなたたちを連れ去った方は、あなたたちを覚えておられます。

あなたたちはかつて神からの離反をたくらみました。回心して、今度は十倍の熱心さで神を求めなさい。」4:27-28

このバルク書によってわたしは講演することの決心がつき、平安を与えられました。しかしもう夜が明けてきましたので眠ることはせず、早朝の散歩をして、朝からのプログラムに備えたのでした。

今日の5章の初めに戻ります。

「エルサレムよ、悲しみと不幸の衣を脱ぎ、神から与えられる栄光で永遠に飾れ。」

この「エルサレム」を、今はわたしたちのこととして聞いてみましょう。わたしたちも過ち、痛み、悲しみを抱えています。不幸というしかない現実があるかもしれません。

しかしわたしたちに呼びかける声が聞こえます。天使の声でしょうか。

「エルサレムよ、悲しみと不幸の衣を脱ぎ、神から与えられる栄光で永遠に飾れ。」

神はわたしたちを、悲しみと痛みの中に放置されないのです。神が涙を拭い、悲しみと不幸の衣を脱がせられる。悲しみと不幸は永遠にわたしたちの身と心を覆うものではない。神がそれを脱がせ、それに代えて神の栄光の美しい衣を着せてくださる。

「神から与えられる栄光で永遠に飾れ。」

「(エルサレムよ、) 神から与えられる義の衣を身にまとい、
かしら頭に永遠なる者の栄光の冠をつけよ。」5:2

神さまは「義の衣」をわたしたちに着せられる。これはどういふことなのでしょう。

バルクは昔の人ですから、まだイエスのことは知らない。けれどもここにイエス・キリストがおられます。義の衣は本来イ

エスのものであったのに、今はイエスがそれをわたしたちに着せてくださる。するとわたしたちは、もはや自分を責めなくてよい。罪や咎に苦し^とまなくてよい。なぜなら、それらはイエスが引き受けてくださったからです。わたしたちは義の衣を着せられて、神はそのわたしたちを正しい者、良き者と見てくださいます。

そしてその義の衣を着せられたわたしたちは、温かくされる。イエス・キリストの愛が、いただいた義の衣の中に満ちているからです。義の衣は神の愛の衣です。

祈ります。

主なる神さま、あなたはわたしたちに、悲しみと不幸の衣を脱いで義の衣を身にまとうようにと命じられました。そのとおりにわたしたちに義の衣を着せて、わたしたちを清めて、あなたの愛で包んでください。そのために十字架に死に復活されたイエス・キリストのみ名によってお願いいたします。アーメン